



# 明けまして おめでとうございます

有田史談会 月例通信

事務局 中村貞光

090-4740-4752

## —新年のご挨拶—

坂井勝也

■ 明けましておめでとうございます。

新しい年を迎えて、今年こそはと希望に燃えておられることと思います。12月は新型コロナウイルス感染者はゼロが続きました。このままで推移すれば、皆さん待望の大橋先生の講座も期待出来そうです。しかし、新たにオミクロン株が世界を駆け巡っており、今まで以上に気を引き締めて、マスクの着用や手の消毒等怠りなく行い、希望の明るい年にしたいと思っております。

さて、前回に引き続き深川製磁に来社された樋渡利秋（ひわたり としあき）第24代検事総長の揮毫品「忠恕」について記したいと思えます。

出典は論語 里仁（りじん）4 - 15です。

子曰く、参<sup>しん</sup>や、吾が道<sup>い</sup>、一<sup>いつ</sup>以て之を貫<sup>つうし</sup>く。曾子曰

く、唯<sup>い</sup>と。子出<sup>し</sup>ず。門人問いて曰く、何の謂<sup>い</sup>ぞや。

曾子曰く、夫子<sup>ふうし</sup>の道<sup>ちゆうじよ</sup>は、忠恕のみ。

先生が言われた。参よ。我が道は、一つの事であつてながれている。曾子は「はい」と答えた。先生が出て行かれると、門人がたずねた。「どういう意味でしょうか」曾子は言った。先生の道は忠恕のまごころだけです。

「忠恕」の字の作りは、「中と心」と「如と心」です。中心とはまごころのこと。如心とは自分の心の如く人の心をおしはかるという意味です。「人を尊び、まごころから思いやる」ことです。「仁」にも通じます。それは孔子の一貫した生き方でした。

旧制中学をすごされたかたは、「論語」と「徒然草」は暗記されており、杖言葉として生活の一部にされているようです。



### 検事総長の揮毫品

深川製磁に来社されたおりのご染筆

（左 樋渡利秋氏 右 土肥孝治氏）

## うれしいお知らせ？

■ 新年早々嬉しいニュースです！（と言ってもこの記事を書いているのは年末ですが（ $\bar{\nabla}$ ）；）

12月20日、大橋先生宅へ年末の挨拶に伺い、大橋先生とは約1年ぶりに再会しました。最近はコロナ禍で大学の講義はリモートで行っているとのこと。相変わらずお忙しいご様子でした。

例年のように坂井会長と二人で伺い、御礼の嬉野茶を持参し簡単な挨拶をして戻る予定でした。

本年度の史談会通信を持参し、活動が停滞して「本年度こそは先生の講義を楽しみにしていたのにコロナ禍で実現できず残念です。」とお伝えしたところ、思いもかけず、大橋先生から「1回だけでも良ければ、1月下旬ころにいかがですか？」と講座を開催しても良いとのことをお話を伺いました。勿論、そのころにコロナが落ち着いていることが条件ですが、講座が開催できるかも知れないと喜びながら帰りました。

喜びもつかの間、年末から国内でも新たにオミクロン株の市中感染者が見つかり、感染拡大が懸念される事態になってきました。講座開催がまた延期になるかも知れませんが、正月7日頃までに大橋先生から事務局宛メールが届く予定なので、朗報を待ちたいと思います。日程が決まれば、当日は正午より大橋先生とご一緒に食事会を行い、その後、生涯学習センターにて講座を開催の予定です。

さて、今回の講座は昨年8月に多久市郷土資料館開館40周年記念で講演された「高麗谷窯跡の秘密を探る」を予定しています。会員のうち記念講演会に参加された方もありますが、「高麗谷窯跡の始まりと陶磁器の生産」「肥前地域における磁器の始まり」の内容でお話を頂く予定です。

なお、講座は記念講演の内容を短縮して行い、残り時間は皆さんからの質問に答えてもらう計画です。どのような質問でも結構ですが、失礼のない範囲で、先生にお聞きしたい質問を用意してご参加下さい。

また、2月20日には、名護屋城博物館の家田館長による「国交回復以後の日朝陶磁器交流」の歴史講座も計画中です。いずれもコロナ対策を行い無理のない範囲で参加頂き、楽しい活動がスタート出来ればと考えています。

# 黒髪山伝説大蛇退治と地名

<第5回>

栗山 慎悟

## ◎ 大蛇は退治された

【大樽・中樽・小樽】 おおだる・なかだる・こだる

内山地区の上有田駅付近（中樽・小樽）と、大樽は内山地区のほぼ中央に位置する。

大蛇を退治するために、酒の入った大中小の酒樽を置いて、大蛇が酒を飲んで酔っぱらったところ為朝が強弓で退治した。

大蛇を退治したお祝いに大中小の酒樽を持ち寄って祝杯を挙げた所。

大蛇を退治したお祝いに近郷の村々から大中小酒樽が贈られた。

それぞれ大きい酒樽を持って来た所を大樽。中ぐらいの酒樽を持って来た所を中樽。小さい酒樽を持って来た所を小樽という。

【住吉】 すみよし（山内町宮野）

大蛇が退治されたので住みやすくなった。よって住吉という。

【畏の越】 わなのこえ

中樽労住から古木場へ抜ける林道、現在は『県道343号線・有田ポーセリング線』。

古木場からは戸矢へ抜けて、大村藩領波佐見へと道はつながる。戸矢には番所が設けられていて、通行人は厳しく取り締まれ、番所を通る道以外には畏が仕掛けられていた。しかし、番所の厳しい取り調べを逃れるために畏を越えて通行する者がいたので『畏の越え』という。

万寿姫を飲み込んだ大蛇が、古木場の集落に入ってこないように畏を仕掛けたので『畏の越え』という。などの由来がある。



畏の越溜池（古木場）  
名をとどめる。

【蛇塔山】 じゃんとうやま。（有田町白川）

白川公民館の裏にそびえる標高187mの山。退治した大蛇の首を埋めた山、よって『蛇頭山』とも書く。有田に疫病が流行った時に、大蛇の魂を慰めるべく供養塔を建て、よって『蛇塔山』とも書く。

麓の人は『ジャント山』呼び、山頂には大きな岩があり、昔は女の子も登って遊べる身近な山だったと懐かしむ。現在は登山道もわからないほど荒れている。登山道は大蛇が這ったあとと伝わる。



蛇塔山（陶山神社から撮影）  
尾根は上幸平天満宮へ続く  
山全体は『浦山』という。

【蛇焼の谷】 じゃやきのたに

評定場（有田ダム）の上あたりを蛇焼の谷という。退治された大蛇は、鱗を残し死骸は三つに切断され焼却されたところと伝わる。

【蛇焼山】 じゃやきやま

天童岩から龍門方面へ尾根伝いに数十m程歩いた標高508mの山。焼却した大蛇の灰が積もってできた山。



蛇焼山  
伊万里山岳会によって『蛇焼山』と書かれた木札が建てられている。

《参考資料》

『有田の民俗』有田町

『肥前陶磁史考』中島浩氣著 清潮社

## 事務局便り

■ 本年度もあと3ヶ月で終了しますが、会員の皆様との交流が出来ないのは寂しいものです。事務局としてやれることは限られますが、史談会通信も昨年4月末に発行を始め今回で20号目になり、辛うじて会の体面を保っています。栗山さんの原稿が早々に届き、会報発行の準備も年末から開始しました。前回、近況報告でお伝えした我が家の愛犬が11月20日に旅立ち、しばらくは何もやる気が起きない日々を過ごしました。元の生活に戻るには時間が掛かりそうです。今年の正月は夫婦二人だけの静かな正月です。